



たまだれ
No.50

特別記念号

たまだれ

Tamadale



巻頭特集

高円宮家根付コレクション展

～小國神社でふれる根付の今昔～

記念号特別寄稿文

神社本庁総長
石清水八幡宮宮司

田中恆清

神社と地域が
一丸となって

国土舘大学特任教授
日本大学名誉教授法学博士

百地

章

日本の課題

■憲法第9条の改正について■

小國神社の由来

昔

創始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武将など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拜殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに

公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索

日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



暑中御見舞い申し上げます 小國神社 宮司 打田文博

平素より当社に対します、ご崇敬はもとより祭事、行事に至るまで、ご理解、ご協力を賜りますこと、感謝申し上げます。

ところで、近年自然災害が多発しております。地震、集中豪雨など局地的ではありますが全国各地に広がり、多くの被災地では大変な思いをされており、衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げる次第であります。同時に災害は明日の我が身、「助け合い」と「備え」は常に心掛けねばと思います。

さて、小國神社の社報『玉垂』は平成十三年一月に創刊以来、年間三〜四回のペースで発行し此の度五十号の節目を迎えました。広報紙の性格上、神社の祭典や行事のご報告や予告が中心となりますが、境内の草花や野鳥などの四季の風景には、毎号新たな発見が多く小國神社の社叢の素晴らしさを実感させられたことがしばしばあります。

この玉垂は、神職が記事や写真を分担し編集されております。従って個々の表現に個性がですが、それゆえの面白さを感じて頂けているのではと存じます。

今般、五十号を機に編集係では、紙面をA4サイズに拡大し、情報量の充実に努めてまいります。また、従来の内容に加え「ご皇室の弥栄」、「国の平和と発展」そして氏子崇敬者をはじめ国民の幸せを大神様に日々祈る立場から、日本のあるべき姿を求め社会的問題や時宜的問題にも時には目を向けてまいりたいと存じます。

昨今の日本は、おぞましい事件や意欲返しとしか思えないような不可解な事案など目を覆いたくなるようなことが多発しております。

一方、世界に目を転じればテロ、独裁、ミサイル発射と不安要素でいっぱいです。これらに共通する点は、独り善がりの正義感や平和主義にあるように思えてなりません。このような現実には悲しいことですが、これ乗り越えるのもまた人間の叡智です。

神道の理想は「共存共栄」です。この実現には、正統な競争や論争の結果として生まれるもので、これこそが正に生みの苦しみなのでしようし、避けて通ることはできません。我国では、初代神武天皇が建国の時に発せられた詔で、「世界が家族のようにならねばならない社会の実現」をお示しになりました。後に、「人道の普遍的な原理」として外国の人々にも高い評価を得ていますが、今こそ私たち日本人が再認識すべきではないでしょうか。そして、実践あるのみです。

この度の記念号発刊に際しましては、内外でご活躍中の森町ご出身の書家、杭迫柏樹先生に題字を揮毫頂きました。また、森町ご出身の憲法学の権威、百地章先生に憲法学の立場からご執筆頂きました。さらには、ご多忙中にもかかわらず「神社と地域が丸となつて」と題し、神社本庁総長田中恆清様より玉稿を賜りました。この場をお借りし、お三方に対し厚く御礼を申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を祈念しご挨拶と致します。



高円宮家根付コレクション展

小國神社でふれる根付の今昔

高円宮憲仁親王殿下と同妃久子

殿下が蒐集された世界有数の根付

コレクションより、印籠・古根付・

現代根付・緒締などを含む約二〇

〇点を一同に展示。

一つ一つに斬新な意匠と創意工

夫の凝らされた根付の世界が来場

者を魅了しました。



平成二十九年四月三十日(日)から五月

十四日(日)迄の二週間、当社研修室にお

いて高円宮家根付コレクション展「小

國神社でふれる根付の今昔」を開催い

たしました。期間中は約五、七〇〇名

が来場し、大変な賑わいとなりました。

開催日前日には、高円宮妃久子殿下

のご台臨のもと、静岡県知事川勝平太

様、森町長太田康雄様、出雲大社宮司

千家尊祐様、SBSプロモーション代

表取締役会長秋山勇雄様、磐田信用金

庫会長高木昭三様、みずほ証券(株)常務

執行役員城田敬久様をご来賓としてお

迎えし開催記念式典を行いました。

◀久子殿下よりご説明を受ける川勝県知事(右)と太田町長(左)



“用と美”そして“ひねり”
日本文化の粋を愛でる。

【根付とは】

根付は印籠や煙草入れなどを帯から提げる際に紐の端に付けた小さな留め具。

江戸時代では町人文化の成熟と共に、粋な道具として実用性・装飾性・芸術性が競われ発展しました。

明治時代に入り、洋服文化の定着とともに需要が減少した一方で、海外ではその高い芸術性が評価され、世界中のコレクターに愛されました。

現代では当時の伝統を継承しつつも現代的な感覚で作られた根付は「現代根付」と呼ばれ、ひねりのある斬新なデザインが愉しめます。

近年では素材や加工技術の発展、海外アーティストの参入により、日本の粋な文化として再び注目を浴びています。



真剣な眼差しで鑑賞する子供たち

▶ ポーランドからお越しの皆様



旅する根付
たび ねつけ
 会場では、高円宮妃久子殿下が国内外の様々な場所で撮影された根付のの写真と実際に被写体となった根付を展示し、レンズ越しに大きな存在感を示す根付たちの生き生きとした姿をお楽しみいただきました。



▶ 出雲大社宮司
 千家尊祐様 礼子様ご夫妻(右)



▶ 衆議院議員
 城内 実様 陽子様ご夫妻(右)



現代根付【大國主命】声方



印籠【鳥細道図方】無銘



現代根付【玉兔】美州



現代根付【とおせんぼ】喜峰



現代根付【鶉】親月



現代根付【壺中天有】喜峰



現代根付【獅子舞】空哉

平成二十九年四月二十九日(土)森町文化会館ミキホールにおいて、本展を記念し高円宮妃久子殿下による特別講演「手のひらの小宇宙」を開催させていただきました。

当日は約七〇〇名の聴講者が訪れ、貴重なご講演を拝聴することができました。

講演では、高円宮憲仁親王殿下がご生前に「根付は日本の文化を象徴するもの。歴史の変遷が見られるようなコレクションにする」と考えられていたと述べられ、殿下が提唱された根付における「ひねり」の概念について、「思わぬところに、しゃれやユーモアが潜

「根付は日本文化の象徴」

高円宮妃久子殿下がご講演

『手のひらの小宇宙』

み作品の隠し味となる」とご説明されました。

スクリーンに映し出された作品の解説では、幅広く日本の伝統的な技法や意匠を網羅した根付の文化的価値や作品ごとに表現された「ひねり」の楽しさに会場では笑顔と響めきが広がりました。

結びに「宮さまが始められた仕事を続けることが私の責務だと考えております。」と締めくくられました。

会場ではスタンディングオベーションが起こり、割れんばかりの拍手が会場を包みました。



青葉薫るご神域に 夏鳥たちの声が木霊する

こだま



ご神域の自然環境を
ご視察された妃殿下



四月三十日(日)早朝、妃殿下におかせられましては、千家宮司様ご夫妻とともに、打田宮司以下職員と(株)日本野鳥の会遠江(支部)代表増田裕氏らの案内で、境内の自然環境についてご視察されました。当社は、年間を通して、約一〇〇種類の野鳥が訪れる野鳥の宝庫であり、様々な草花が棲息する貴重な生態系が保たれています。

増田代表が現在確認できる野鳥の説明



を申し上げると「森が深く、他にも多くの野鳥が飛来してきそうですね」と述べられました。

また、環境省レッドリストの絶滅危惧II類(VU)の指定されている、ラン科アツモリソウ属「クマガイソウ」を発見し貴重な開花姿を観察されました。

六月十一日(日)には、本展示会での入館料の一部を自然保護団体である(株)日本野鳥の会遠江(支部)に寄付いたしました。

神社と地域が一丸となって

長 宮司 宮司 八幡 清水 石
長 宮司 宮司 八幡 清水 石

清 恆 中 田

先ず以って御社頭愈々ご隆昌のこととお慶び申し上げますと共に、打田宮司様を始め職員の皆様、総代・氏子崇敬者の皆様におかれましては、日々御社頭の護持、運営にご尽力されておられますことに深く敬意を表する次第です。

更には、打田宮司様には、我が国のため、斯界のため、神道政治連盟におきまして会長の要職に就かれ、極めてご多忙の中、如何なくその手腕を発揮され、ご活躍いただいておりますことに厚く御礼申し上げますと共に感服至極に存じます。

また、此度は社報「玉垂」が発刊五十号を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。教化活動や広報活動の一環として、あるいは後世に伝える記録として社報を刊行することは、現代において大切なことであり、また継続して行くことが重要であるかと存じます。

さて、東日本大震災より早六年が経過いたしました。震災直後から現在に至るまで、被災地に足を運ぶたび、着実に復興の歩みを進めていると感じる地域もあれば、未だ道半ば、あるいは震災当時の様子を生々しく感じる箇所もあります。そのような中で、真に復興を成し遂げるとはどういうことかと考えるとき、その地域の心をまとめるもの、その地域に根づいていると感じさせるきっかけは、やはり「神社」にあり、「祭り」にあるのではないのでしょうか。それがあからこそ、いざというときに共同体は結束します。まさに大災害や飢饉といったときに日本人は祭りを通して神々に祈りを捧げ、早い収束を祈ってきました。神々への祈りが、結果として人々を奮い立たせ、再興への、復興への大きな力となってきました。

神社本庁では現在、過疎地域神社活性化施策に取り組んでいきます。いわゆる高度成長期以来、大都市に人口が集中する一方、農山村の過疎化が進み、少子高齢化の問題とも相まって、過疎化は国の根幹を揺るがしかねない問題となっています。当然、神社を取り巻く環境も深刻さを増しており、過疎地域においては護持、

運営が危惧される神社もかなりの数に上っています。今般の本施策は、視点を神社から地域に広げ、地域ぐるみの祭礼行事の継承、振興あるいは復興による地域全体の活性化を図っていくことを中心に据えています。

神社の歴史には、一千年、二千年ものあいだ守られてきたものがたくさんあります。そして人々の祈りとともに存続し、心の拠り所となって続いてきました。常に人々の心を集約し、それをさらに高めていく。そういった役割を神社は担っています。氏子地域の活性化や復興、あるいは生活の基盤を支える、そういったことも神社と一体になって考えていかなければなりません。

今こそ、社会の中心として護り伝えられてきた神社、祭り、鎮守の杜において、神職・総代・氏子また関係者の皆様が、先人たちが繋げてこられた叡智を結集し、一丸となってその思いを共有し、様々な活動に取り組み、地域活性化、復興のためにご活躍いただくことをお願い申し上げます。

結びに当り、御社益々のご隆昌と関係各位の益々のご健勝とご多幸を祈念し、私の拙い寄稿とさせていただきます。



プロフィール

田中 恆 清

昭和19年6月30日、京都府八幡市生まれ。代々石清水八幡宮宮司を務める田中家に生まれる。昭和44年國學院大學神道学専攻科を修了、同年より平安神宮奉職。昭和47年に石清水八幡宮へ。同宮権禰宜、禰宜、権宮司を経て、平成13年7月宮司に就任。平成22年より全国約8万の神社を包括する神社本庁の総長を務める。

■主な現役職

- 神社本庁総長
- 京都府神社庁長
- 世界連邦日本宗教委員会会長
- 一般財団法人日本文化興隆財団理事長
- 一般社団法人日本国際文化協会会長

著書に『神様が教えてくれた幸運の習慣』（幻冬舎）、『神道のちから』（学研パブリッシング）、『謎多き神 八幡様のすべて』（新人物往来社) など。

神々とお祭り

私たちの祖先は、神々の営みのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

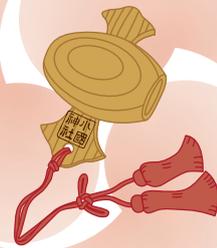
また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返されるわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。





例祭

大神様のもとに集い

日々の感謝を伝え
ともに喜びをわかちあおう

例祭とは

神社にとって最も重要な祭祀です。通常、年に一度執り行われます。それぞれの神社やご祭神にとって特別に由緒あるお祭り、俗に例大祭とも称されます。

例祭の斎行

本年の例祭期間は、四月十三日(木)、末社塩井神社の垢離祭(神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り)の斎行を皮切りに、十六日(日)、神幸祭を斎行。十八日(火)には、当社で最も重要な祭祀である例祭を執り行いました。

◀ 勅使役 宮澤博行様



▼ お稚児さんによる玉串拝礼



十六日の神幸祭では、神輿渡御が行なわれ、大宝元年(五五五)の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が行道を賑わせました。本年の勅使役は防衛大臣政務官・衆議院議員宮澤博行様にご奉仕いただきました。小國大神様を称え、大神様のもとに地域の人々が集まり日々の感謝を申し上げ、共に喜びを分かち合うことで大神様のご神徳はより威を増します。

氏子崇敬者におかれましては益々のご健勝とご多幸を心より申し上げます。





舞楽

大神様へ捧ぐ誠の心

小國神社古式十二段舞楽

古式十二段舞楽とは

十二段舞楽は、毎年四月十八日に近い土・日曜日にほぼ一日をかけて奉奏します。

この日付は、欽明天皇十六年（五五五年）二月十八日、本宮山にご神霊が出現したという当社の創建にちなんだものです。また、大宝元年（七〇一年）春十八日には都から勅使（天皇のお使い）が出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。

昭和五十七年一月二十三日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。

古式舞楽奉仕者御芳名（敬称略）

指南役 本鼓 白幡 富幸
 翻覆 鉦鼓 大場 篤
 内大北 大場 富幸
 藤場 島 篤
 明詞 恵 篤
 廣信 介 篤
 衣裳方 行頭 衣芳
 鈴小 天鶴 高
 木林 野見 木
 勝野 智俊 誠
 幸隆 志之

楽人見習 舞人見習 稚児
 太平楽
 色香 安摩 二の舞
 陵王 納蘇利 獅子
 奏人見習 舞人見習 稚児
 太平楽
 色香 安摩 二の舞
 陵王 納蘇利 獅子
 小川 正章 高人 夫恭
 川口 雅夫 高喜 陽一
 木橋 宏太 稀永 平一
 石場 太斗 陽一
 大場 稀永 平一
 時田 慶稀 永平
 大木 菱脩 慶稀
 藤原 雄太 慶稀
 朝比奈 陽太 慶稀
 天野 大易 慶稀
 白幡 磨佐 慶稀
 岩瀬 公彦 慶稀
 西尾 公彦 慶稀
 佐野 泰公 慶稀
 成瀬 満彦 慶稀
 下原 健彦 慶稀
 野口 雅彦 慶稀
 鈴木 章彦 慶稀
 小川 正章 慶稀
 嶋田 秀正 慶稀
 栗田 強裕 慶稀
 鈴木 裕一 慶稀
 村松 浩二 慶稀
 内山 敬一 慶稀
 内山 聖昭 慶稀
 鈴木 智昭 慶稀



太平楽



稚児舞



獅子舞



色香



巫女舞

指南役奉仕者御芳名（敬称略）

原田 多加 資
 今村 合花
 柳田 恵璃 香
 原田 紗耶 香
 原田 茉優 香

巫女舞奉仕者御芳名（敬称略）



蝶の舞



大前を照す御神燈献燈

清浄な灯りをご神前に

本年の例祭におきましても多くの氏子崇敬者の皆様より、御神燈と雪洞の献燈をいただきました。

灯りには元来「火」がつきもので、「火」は清め祓いに用いる清浄なものです。また、私たちの祖先は「火」そのものが諸霊を呼び、諸霊が依り付くとも考えてきました。

大前に灯りをお供えすることは照明としての意味と、ご神域を清浄に整える二つの意味があります。



舞楽永年奉仕表彰式



稚児行列奉仕の皆様

御芳名

(敬称略・順不同)

御芳名

(敬称略・順不同)

神賑わいの灯り雪洞献燈

- (株)三永 森町
- (株)松鶴 袋井市
- (有)破魔矢奉製所 神奈川県
- 大沼建設(株) 森町
- 春日屋青果店 袋井市
- 榛葉工芸 島田市
- 岡野建設(株) 森町
- (株)阿部 栃木県
- 常陸神宝(株) 茨城県
- (有)宮崎モーターズ 森町
- 大石糀店 森町
- (株)PROハイ・サービス 磐田市
- (株)長谷川製作所 埼玉県
- (株)村上社寺工芸社 兵庫県
- (株)三愛工芸 茨城県
- (有)丸井紙店 山梨県
- リリーフ(株) 森町
- みどり写真館 森町
- 京都奉製(株) 京都府
- 小國こまち横丁 森町
- (株)小倉商店 森町
- (有)デザインオフィスエムエスシー 袋井市
- (有)政和電気 森町
- 倉見建設(株) 森町
- 豊田合成(株)森町工場 森町
- (株)さのや会館 袋井市
- (有)浦野モーターズ 森町
- セコム(株)磐田支社 磐田市

- ヤマハ発動機(株)森町工場
- (株)鈴木長十商店
- (株)ネクサスコイポレーション
- かんなび
- (株)久米吉
- (有)太田茶店
- 保食や
- 青木恒産
- 胡祉斎
- 友誠
- マルミ塗装
- 清水商店
- 遠州みもろ焼
- 神宏クリーンサービス(株)
- 真田の森
- cafe もりまち
- (株)デイトナ
- (株)大塚彫刻工芸
- 高木建築
- 森のどうぶつ病院
- 吹きガラス工房
- フロレスタフアブリカ
- (有)萩原造園
- (有)タカギ商会
- 鈴伍酒店
- ヘアーサロンタカギ
- 森のびようしつ
- (有)多米建設
- フナギテック(株)
- 三木の里カントリークラブ

- 一ノ宮郵便局
- 松田歯科医院
- 入鹿ハム
- (有)アマノ
- (株)ジェイエイ遠中サービス
- (有)今泉土木
- (有)大井製作所
- 加藤修・孝尚事務所
- ユージン(株)
- ユアコルトパッケージ
- カルト(株)
- (有)オーキッド
- 乗松刃物
- こっこ屋
- 楽酒処 駿
- 工房HAL
- 亀山銀男
- (有)共栄土建
- (株)日本温装工業
- (株)袴田製作所森町工場
- (有)エムケイデンキ
- 百々や
- (株)ハマネット森工場
- 中井商事(株)森工場
- (有)アカネ造園土木
- (有)一木機械店
- 日本工機(株)
- 大同DMソリューション(株)
- 静岡工場
- 暁雲窯
- (株)ザフォレストカントリークラブ
- 鈴木土建(株)
- メイクアップ(株)

- (株)菓匠 あさおか
- ビューティーサロンタカヤナギ
- 高柳米穀店
- 旭自動車
- (有)遠州ボデー
- カットハウスオオタ
- 野口園
- さくら水道
- 鈴木三千雄
- (有)富士鉄工
- (有)大寶建設
- 松ヶ谷診療所
- (有)渡辺防水工事
- (有)すぎ工業
- 遠州森 鈴木農園(株)
- あさひな(株)
- (株)伸孝
- (株)ダイゴ
- (有)朝比奈造園
- (株)鈴木建築
- (有)西尾工務店
- 遠州中央農協園田支店
- 長岡香料(株)静岡工場
- サンフード機販(株)静岡工場
- (有)北島電気工業
- (有)守屋モーター
- (有)ムラマツ住建
- (株)関東甲信クボタ
- 遠州森営業所
- 山本フミコ美容室
- 美容室たけしの店
- (株)太雄工業
- 西村医院
- ぴあタウンシャトー中川
- 金山化成(株)シズオカ工場
- ヤスマ(株)静岡工場
- (株)山本環境整備

- かねとよ(株)
- (株)ツカモト
- (有)栄産業
- 杉本金属工業(株)
- 田中屋酒店
- (有)金原石油
- (株)家本工務店
- 建機工業(株)
- 鈴木美容院
- 三幸産業(株)
- なかね美容室
- (有)インテリア村松
- 東京理容
- (株)やまひろ関東工場
- 豊一商店
- (有)石田茶店
- (有)鈴木次郎商店
- 松浦製茶(株)
- 栗田商店
- 長谷川建具店
- 台日レストラン
- 小國神社敬婦人会
- 小國神社氏子青年会





静風流家本海野俊堂様によるお点前

献茶祭

大神様へ季節の恵みを供え、感謝を捧ぐ

四月十三日(木)に献茶祭を斎行いたしました。

銘茶の産地森町で茶業を営む方々により結成された『小國神社献茶会』が国家の安泰、国民の繁栄、茶業の振興を祈り、大前に新茶をお供えして行なうお祭りです。

本年は、煎茶道静風流家元海野俊堂様、副家元海野光昌様によるお点前のご奉仕をいただき、森町茶商組合長島謙造様、森町長太田康雄様を始め大勢の皆様にご参列を賜りました。

この献茶式に献上されたお茶と同品質のお茶「福德神饌茶」が小國ことまち横丁にて販売されています。

ご参拝の折に是非、ご賞味ください。



端午祭 菖蒲の授与



青葉祭 お神札の授与

端午祭

ご神域に響きわたる子どもたちの賑やかな声

五月五日(金)十一時より端午祭を斎行いたしました。当社で命名奉告のご祈祷を受けられたお子様とご家族にご参列いただきました。大神様へお子様の健やかな成長の感謝を申し上げると共に今後のさらなるご加護をお祈りいたしました。

祭典後、お神札と柏餅、ご神域で育まれた菖蒲とよもぎの葉を授与いたしました。古より、菖蒲の葉やよもぎは邪気を祓うと伝えられています。

端午の節句は「菖蒲の節句」とも呼ばれ、もとは宮中行事として行なわれ、江戸時代に民衆に広がった伝統行事です。

当日は、子どもたちの元気な声が境内に響き渡り、大神様もさぞお喜びの事と拝察いたします。

青葉祭

芽吹きの緑が鮮やかな新緑の本宮山

五月六日(土)十一時、香しい黒文字の木で飾った、本宮山奥磐戸神社にて青葉祭を斎行いたしました。責任役員を始め氏子崇敬者七十余名にご参列を賜りました。

祭典後、奥磐戸神社のお神札と撤下品を授与し、直会では遠州灘を遙かに望みながら古式神酒と旬の初鰹の刺身を頂き、日々のご神恩に感謝をいたしました。

毎月六日九時三十分頃には、奥磐戸神社の月次祭を執り行います。どなたでもご参列いただけますので、皆様お誘いのうえ、ご登拝頂きますようご案内申し上げます。

奥磐戸神社へのアクセスは
奥磐戸神社 アクセスで検索

奥磐戸神社 アクセス

検索

本宮山奥磐戸神社登拝道、鳥居建立

青 空のもと清々しく祓い
清められた鳥居が竣工

四月二十三日(日)、春らしい柔らかな陽射しが降り注ぐなか、本宮山奥磐戸神社登拝道に新たに建立された鳥居の竣工奉告祭を執り行いました。

この度の建設事業は、奉賛会長中村虎司様をはじめ大場孝侑様、中根省二様、中村礼二様が発起人となり募財活動が進められ、多くの氏子崇敬者の赤誠が鳥居に込められました。

本宮山奥磐戸神社はご祭神の荒御魂(活動的なお力)をお祀りし、古より、遠江国の安泰や豊穰、子孫繁栄、万民の豊樂が祈られてきました。

近年では、本宮山の清々しいご神気に触れようと県内外より多くの参拝者が訪れています。



多くの参拝者のもと行われた竣工奉告祭

一宮花しょうぶ園開園

美しく咲き揃う初夏の恵み

五月二十五日(木)～六月二十日(火)の約一ヶ月にわたり一宮花しょうぶ園を開園し、期間中約一万四千人以上の皆様にご来園いただきました。



小國一宮大境く三ツ石く

遠 江国の歴史を語る貴重な遺跡

二月二十七日(月)、「小國一宮大境く三ツ石」が町の指定文化財に登録されました。「三ツ石」は小國神社が遠江国の一宮となった平安時代末期の神領を示すもので、森町と磐田市にまたがる本宮山から尾根伝の道を南西に一キロほど下った場所に所在します。



▲当時の神領を示す三ツ石

本宮山には当社の奥宮である奥磐戸神社が鎮座し、伝承では平安末期に山麓の人々が三ツ石を埋めたとされています。当社所蔵の慶長五年(一六〇〇)に記された「小國神社境内絵図」にも描かれています。古くはこの「三ツ石」の上で亀卜(きぼく)が行なわれ、遠江国の豊作や飢饉、天災の有無などを占ったとされています。他にも円田地区の遺跡「小國一宮大城戸」も新たに文化財指定を受けました。

御神鏡奉納

明治以来のご奉納の『御神鏡』

五月二十九日(月)に株久米吉代表取締役倉島正三様、良枝様のご夫妻より用途指定寄付を賜り、本殿大床に奉安されている御神鏡と雲形台を新たに奉製することとなりました。

現在の御神鏡は明治十三年、旧神官等により奉納されましたが、長い歳月を経て劣化が著しく進んでいました。この度のご浄財により、約一三七年ぶりに御神鏡が新たに生まれ変わり、大前に奉安されることは当社の歴史としても大変意義深く、衷心より感謝を申し上げます。

今後とも小國大神様のご神慮をいただき、益々のご健勝とお栄えをお祈り申し上げます。



▲倉島正三様、良枝様ご夫婦

夏越大祓式

水 無月の夏越の祓する人は千歳の命のぶというなり

六月三十日(金)の午後三時より夏越の大祓式を斎行いたしました。

大祓式は、日々の生活の中で知らず知らずのうちに犯してしまつた罪や身についた穢れを身代わりとなる人形(ひとがた)に託して祓い清める神事です。

本年は、約四〇〇名が参列になり、清浄な心と身体で残りの半年を過ごせるようにお祓いをいたしました。

続いての茅の輪くぐり神事では、ご参列の皆様は清々しい表情で茅の輪をくぐり抜け、半年の無事をお祈りされていきました。

また、本年十二月三十一日(日)には、師走の大祓式を斎行いたしますので、是非ともご参列ください。

▲唐櫃に納められた人形を運ぶ神職





御田植祭

昔の手振りをそのままに

五月二十八日(旧)宮代神饌田において、田植え始めの祭り御田植祭を執り行いました。

我国において『お米』は、神様からの授かりものとして大切に受け継がれてきました。そして、その生育を願い幾重にも祭りが行われ、日本の伝統文化の礎を築いてきました。

当社の御田植祭も当社に現存する最も古い記録書「延宝の記録」にその様子が記された由緒あるお祭りです。平成十一年に「延宝の記録」やその後の資料、伝承をもとに古儀を復興し現在にいたります。

本年も五月女・五月男には森町立旭が丘中学校の生徒と当社敬神婦人会会員が伝統的な所作でお田植え奉仕をいただきました。

また、氏子青年会OB玉垂会による代掻き牛が登場すると多くの参列者から笑みが溢れていました

体験学習

日本文化の宝庫、それは神社です

四月二十五日(火)町立森中学校一年生による体験学習が行なわれました。

職員が基本的な神社でのお参りの作法を始め、当社のご由緒、遠江国の歴史を中心にお話をいたしました。

日本文化の宝庫である神社を知り、その歴史を学ぶことは、私たちの住む土地を知り、「日本」の国の成り立ちを知ることにつながります。

質疑応答の時間では、神社に対する素朴な疑問から深い内容まで様々な質問がありました。熱心に質問をする生徒のみなさんが大変印象的でした。



夏詣のススメ

緑と触れあう癒やしのひととき

四月下旬の新緑の美しい季節から緑深まる晩夏まで、ご神域は緑溢れる清々しい神気で満たされています。

ご神域の緑に包まれながら、ゆっくりと散策を

青葉もみじ癒やしの散策路

する森林浴には、ストレス状態の改善・交感神経活動の抑制・副交感神経活動の向上など様々な効果・効能があると期待されています。

宮川沿いは段差が少ない平坦な道が続きます。大人の足でじっくり巡ると三十分から四十分の散策路となっています。

心静かに古代の森を歩むとき、清らかな心と身体へ立ち返ることでしょう。

これからの 行事

12月



師走大祓式



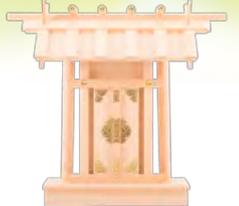
12月31日(日)午後3時より、師走大祓式を斎行いたします。下半期の罪穢れをお祓いし、清々しく新たな年を迎えることができます。どなたでもご参列ができますので、ご家族皆様でご参列下さい。



小國神社と人と暮らしと かみのたな展

期間：11月中旬～下旬 場所：研修室

神棚に柏手を打ち、1日が丁寧にはじまる。「人と暮らしとのかみのたな展」は、神棚のある暮らしを想い、現代の生活にも馴染むよう作られた神棚や、全国各地の神具を集めた展示です。



11月

しもつき
霜月

- | | | |
|-------|-----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 3日 | 明治祭 | (午前 9時) |
| 4日・5日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 7日 | 山神社例祭 | (午前10時) |
| 15日 | 七五三祝祭 | (午前 9時) |
| 18日 | 月次祭・稲祭 | (午前 9時) |
| 19日 | 疫神齋 | (午後 2時) |
| 21日 | 地鎮祭 | (午前 9時) |
| 23日 | 新嘗祭 | (午前10時) |
| | 奉納農産物品評会 | (午前10時) |
| 25日 | 紅葉祭・山芋賞味会 | (午前11時) |
| 26日 | もみじまつり | (午前10時) |

12月

しわす
師走

- | | | |
|-------|---------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 2日・3日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 3日 | 甲子祭 | (午前 9時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 16日 | 鎮火祭 | (午後 3時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 18日 | 滝宮例祭 | (午前10時) |
| 18日 | 初穂献納祭 | (午前11時30分) |
| 23日 | 天長祭 | (午前 9時) |
| 25日 | 煤佛祭 | (午後 1時) |
| 31日 | 大祓式・除夜祭 | (午後 3時) |

小國神社の 祭典・

8月～

11月1日(水)ことまち横丁
リニューアルオープン!!

ことまち横丁二丁目
夢小径が誕生します

平成20年に当社の門前横丁として
オープンした「ことまち横丁」が店舗
数を増やし、約10年ぶりにリニューア
ルオープンいたします。

今まで多くの皆様からも親しまれて
きたお茶やかき氷、かりんとうやお煎
餅の店舗はそのままに、新たに店舗が
加わり装いも新たに生まれ変わります。

8月

はづき
葉月

- | | | |
|-------|--------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 5日 | 甲子祭 | (午前 9時) |
| 5日・6日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |

9月

ながつき
長月

- | | | |
|-------|----------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 2日・3日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 23日 | 秋季皇霊祭遙拝式 | (午前 9時) |
| 25日 | 御柱祭 | (午前 9時) |
| 30日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |

10月

かなづき
神無月

- | | | |
|-----|------------------|------------|
| 1日 | 月次祭 | (午前 9時) |
| 1日 | 大骨董蚤の市 | (日の出～午後3時) |
| 4日 | 甲子祭 | (午前 9時) |
| 6日 | 本宮山月次祭 | (午前10時) |
| 7日 | 白鬚神社例祭 | (午後 3時) |
| 17日 | 神嘗奉祝祭・
神嘗祭遙拝式 | (午前 9時) |
| 18日 | 月次祭 | (午前10時) |
| 18日 | 福神像頒布式 | (午前10時) |



秋季皇霊祭遙拝式

9月23日(土)、宮中では歴代の天皇・皇后・皇親の霊を祀る祖霊祭『秋季皇霊祭』が厳かに行なわれます。当社では、同日に皇居内の皇霊殿の方向に向けて拝礼し、皇室の弥栄と国の安寧を祈ります。



新嘗祭

11月23日(木)10時より、大神様へ1年の収穫と諸産業発展の感謝を申し上げる新嘗祭を斎行し、奉納農産物の即売会や篤志奉納者への感謝状の贈呈式も執り行います。年間の祭典の中でも最も重要な祭りの一つです。





日本の課題

■憲法第9条の改正について■

国土館大学特任教授
日本大学名誉教授法学博士

百地 章

憲法は国の最高法規です。しかし現実と合わなくなれば、改正するのが自然でしょう。ところが、改正手続きが世界一厳しいため、日本国憲法は施行されてから七〇年間、一度も改正できませんでした。そのため、憲法と現実の間には様々なギャップが生じています。

その典型的な例が、一切の軍隊の保持を禁止した憲法九条二項と、自衛隊の関係でしょう。現在の自衛隊は、「実態」は明らかに「軍隊」です。しかし、憲法は「軍隊の保持」を禁止していませんから、「法的には軍隊ではない」といわざるを得ません。そこで、やむをえず政府は、自衛隊は「軍隊」ではなく「自衛力」だから、憲法違反ではない、と説明してきました。国民の九割も自衛隊の必要性を認めています。

しかし、共産党や憲法学者の多くは、対案を示さないまま、自衛隊を憲法違反であると批判しています。自衛隊員はこのような批判を浴びながら、発足以来、わが国の安全と国民を守るため、命がけて任務の遂行に当たってきました。海外に派遣されたPKO部隊の隊員の中には、家族宛に遺書を書かれた人たちも沢山いると聞きます。

そこで、本来であれば九条二項を改正して、自衛隊を「軍隊」として位置付けるべきです。しかし、これには公明党が反対しているため、いつまで経っても憲法改正ができません。そこで、せめて「自衛隊の保持」を憲法に明記するだけでもできないだろうか、というのが五月三日、安倍晋三首相（自民党総裁）が、国民に提起した憲法改正案でした。つまり、将来、国民の賛同を得て自衛隊を軍隊とするため、第一歩を踏み出そうというわけです。それでは、この改正によって一体どのような効果が得られるのでしょうか。

残念ながら自衛隊の「権限」は現在と変わりません。あくまで現在の自衛隊を憲法に位置付けるのが目的だからです。しかし、その自衛隊の「地位」は間違いなく高まります。統合幕僚長を

じめ陸上・海上・航空空幕僚長は、国務大臣と同様、認証官とされ、その任命に当たっては、天皇陛下から直接お言葉を賜ることが期待されます。また、現在、自衛官に対する「栄典（勲章）」や犠牲者への「賞恤（しょうじゅつ）金」（功労金・お見舞金）等においては、諸外国や国内の他の官職と比べ様々な格差がありますが、これを是正できます。そして何よりも、自衛隊の合憲性を明らかにすることによって、自衛官の士気と誇りを高めることができると思われます。特に、わが国を取り巻く厳しい国際情勢の下、国家国民を守るため、四六時中、文字通りのちを掛けて任務の遂行に当たっている自衛隊および自衛官にとって、これは心強いことではないでしょうか。

安倍首相は、四回の国政選挙で連続して勝利を収め、昨年、初めて衆参両院で「憲法改正の発議」に必要な「三分の二」以上の改憲勢力を獲得することに成功しました。何としても憲法改正を行い、独立国家に相応しい憲法を実現したいとの安倍首相の確たる信念が、あと一歩で憲法改正が実現できそうな今日の状況を生み出しました。私も、安倍首相を応援し、憲法改正の実現のため全力を注ぐ決意です。

プロフィール

百地 章



昭和21年、静岡県森町生まれ。
昭和46年、京都大学大学院修了。愛媛大学教授を経て、平成6年より日本大学教授。平成29年、日本大学名誉教授、国土館大学特任教授。法学博士。専門は憲法学。

■主な現役職

- 前比較憲法学会理事長
- 「民間憲法臨調」（櫻井よしこ代表）事務局長
- 「美しい日本の憲法をつくる国民の会」（共同代表・櫻井よしこ・田久保忠衛・三好達）幹事長
- 神道政治連盟政策委員
- 産経新聞「正論」執筆メンバー

著書に『憲法の常識 常識の憲法』（文春新書）『憲法と日本の再生』『靖國と憲法』『政教分離とは何か』『憲法と政教分離』（成文堂）など多数。

新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える
「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。

お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

平成二十九年三月一日(水)
平成二十九年六月三十日(金)

- | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 村松 垂海 浜松市 牧野 航士 袋井市 田中 陽翔 東京都 | 村松 瑚々奈 浜松市 中井 那乃花 袋井市 遠藤 佑香 牧ノ原市 | 松井 結菜 浜松市 山下 瑛士 御前崎市 賀田 千晶 静岡市 | 藤永 実奈 磐田市 寺田 幸恵 磐田市 本田 千晶 静岡市 | 大嶋 日俐菜 磐田市 藤原 壮吾 磐田市 岩崎 千奈 磐田市 | 小笠原 汐里 菊川市 藤原 実里 岡崎市 薩川 由希妃 磐田市 | 牧田 浩典 藤枝市 縣 芽生 浜松市 大橋 礼奈 磐田市 | 横田 琉名 掛川市 笠松 実里 岡崎市 藤原 礼奈 磐田市 | 坂本 惇 袋井市 川手 咲杜 磐田市 石山 丈士郎 掛川市 | 花島 咲樹 森町 戸塚 彩人 掛川市 浅井 咲良 掛川市 | 酒井 櫻二郎 群馬県 篠原 瑠奈 掛川市 相澤 遥斗 袋井市 | 青山 莉玖 袋井市 柳瀬 貴康 掛川市 河原崎 咲良 御前崎市 | 高田 知暖 袋井市 尾崎 貴康 掛川市 御前崎市 |
|-------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------|

命名
父 小國 太郎
母 花子
長男 大和



当社で命名奉告をされた皆様
お子様の健やかな成長をお祈りします



お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

神社を知れば日本がわかる “まっりの国、日本”



●神様のお話●

何人いるの？えっ！？800万？……

我国には、「800万」の神さまがいらっしゃるといわれています。「800万」とは、数え切れないほど沢山という意味で『古事記』や『日本書紀』に記載され、神社にお祀りされている神さまだけが、全てではありません。

もともと、四季の移り変わりに敏感に反応しながら営みを続けていた私たちの祖先は、農耕民族として太陽や雨などをはじめ、『自然の恵み』は、何よ

りも大切なものでした。

自然界に起こる様々な現象、天変地異、それらを神さまのお力として畏れ敬ったところに信仰の始まりがあります。

そして自然を司る神さまは、私たちの生活全てに関わる神さまとして、人々に崇められるようになりました。

当社は、四季折々の自然に恵まれた豊かな杜に包まれ、ご神域には多くの草花が息づいています。

ご紹介をするご神域の草花の写真の数々は崇敬者の山崎克己様の奉納写真をもとに掲載いたします。

ササユリ（笹百合）ユリ科ユリ属

花期 五月～七月
生育地 山地の草原や明るい森林
分布 本州中部から九州

古事記においては「山由理草」と表記され「元の名を狭草（ささる）という」と記されています。

また、奈良県を流れる狭井川とその地に咲くささゆりをお供えものとする率川神社の三枝祭（ゆりまつり）は古式を今に残す貴重なお祭りとして全国的に知られています。



ササユリ

心をうるわしく感性を高める

第八期「遠州とこわか塾」入塾のススメ

「常若」とはいつまでも若々しくいることです。

私たちは「若々しさを保つ」とは、単に体力的なことだけではなく、むしろ心や頭の若々しさこそが重要だと考えます。その為には、よい話を聞き美しいものを見て、感動や感謝の気持ちを忘れず、常に感性を高めることが大切です。

当塾は、我国の歴史や伝統文化にはじまり、時局的課題について学び、日本人としての生き方の参考となるような礎材を提供し、塾生の皆さんが自己研鑽の場としてご活用戴くことを願っております。

【入塾要項】

- 一、定員 一〇〇名（申し込み先着順）
 - 一、資格 小國神社が好きな方（十八歳以上）
 - 一、塾費 年間 一、〇〇〇円（一年を一学期とします。）
 - 一、開催日 年数回（九月一日から翌年八月三十一日迄の間）
 - 一、ご案内 開塾のご案内はその都度神社から発送致します。
 - 一、申込方法 〒番号・住所・氏名・電話番号・年令・性別を記入して、葉書、FAX等で申し込みください。
- お申込先 FAX（〇五三八）八九一七三六七
「遠州とこわか塾事務局」
平成二十九年八月二十五日（金）

一、申込期限



はままつフラワーパーク理事長
塚本こなみ先生



衆議院議員・前外務副大臣
城内実先生



鎌倉長谷寺法務顧問・エッセイスト
高田都耶子先生

編集後記

社報「玉垂」は、平成十三年の創刊より約十六年の歳月が立ち、本号で節目の五十号を迎えることとなりました。本号を編集するにあたり、これまでの紙面の在り方を見直し、今後の広報における「紙媒体」と「デジタル媒体」の組み合わせの強化を念頭に、公式WEBサイトとの関連性を高め、一貫性のある広報媒体の基礎構築を目指しました。

「紙」対「デジタル」という考え方は、互いの利点を伸ばすことで、それぞれの媒体が持つ可能性をまだまだ広げていくことができるように思います。

広報活動を取り巻くメディア環境は時々刻々と移り変わります。

そのような中、改めて当社の歴史や先人が築いた精神文化を礎に「小國神社のDNA」を紐解きながら、時代に則した様々なメディアコンテンツを拡充し、より多くの皆様に当社の魅力をお伝えして参りたく存じます。

